

大会宣言

昨年、全日本ろうあ連盟は創立70周年を迎えました。福岡で記念大会となる第65回全国ろうあ者大会を開催し、大勢の仲間と長い歴史の節目を迎えられたことを喜び合いました。そしてこの度、次の10年に向けた第一歩である本大会を、手話言語との縁が深いここ大阪で開催できることに、私たちは新たな喜びを感じています。

今から85年前、当時の文部大臣が訓示で口話法を推奨したことがきっかけとなり、全国のろう学校が口話法による教育へと舵を切りました。当時「手まね」と呼ばれ、さげすまれていた手話言語は、聞こえない者の社会参加を阻害するとして使用を禁止されたのです。そうした時代の潮流の中において、聞こえない子どもたちの発達に手話言語が重要な役割を果たすことを理解し、手話言語による教育を続けたのが、現在の大阪府立中央聴覚支援学校の前身である大阪市立聾啞学校でした。手話言語を守り抜いたことで、仲間同士のつながりが保たれ、その中で育った人たちがまた多くの仲間と手をつなぎ合って、ろう者の人権を守るために闘ってきました。当事者自らが不当な扱いに対して異議を唱え、社会の主役として一步を踏み出すことに繋がったのです。

さらに今、多くの自治体で手話言語条例が成立し、手話言語の重要性を理解された全国の知事・市区長が、私たちと手を携えて手話言語の普及に向けて歩みを進めるまでになりました。特にここ大阪府は、条例に乳幼児期からの手話習得の機会の確保を明記し、乳幼児期手話獲得支援事業に取り組んでおり、事業に参加した聞こえない子どもたちとその家族の笑顔は、私たちがこれから歩むべき道を明るく照らし出しています。

時代は大きく変わろうとしています。昨年、トルコのサムスンで開催されたデフリンピックでは、多くの日本のろう選手の活躍ぶりが、聞こえる選手と同じように広く報道されました。電話リレーサービスなど、ろう者のスムーズな意思疎通を支えるICT環境の整備が進んでいます。

多様性や違いを尊重する懐の深さは、人を育て、社会を活性化させます。私たちの取り組みは、私たちのことだけでなく多くの人々の幸せにつながるのです。このことを深く理解し、共に学び合いながらこれからの未来を切り拓いていくことを誓います。

2018年6月10日